



2021年3月18日
江戸川区
株式会社イトーヨーカ堂
株式会社セブン&アイ・クリエイトリンク

江戸川区と株式会社イトーヨーカ堂、株式会社セブン&アイ・クリエイトリンク 『地域活性化等に関する包括連携協定』を締結

東京都江戸川区（区長：斉藤猛）と株式会社イトーヨーカ堂（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：三枝富博）、株式会社セブン&アイ・クリエイトリンク（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：泉井清志）は、「アリオ葛西」「イトーヨーカドー小岩店」を起点として、多様な分野で包括的な連携と協力関係を築き、江戸川区の将来にわたる活力ある地域社会の形成・発展及び市民サービスの向上に資するため、「地域活性化等に関する包括連携協定」を締結します。

今後、本協定に基づき協働の取組を推進してまいります。

- 1.協定の名称 『地域活性化等に関する包括連携協定』
- 2.協定締結式 2021年3月18日（木）
- 3.協定の目的 3者が多様な分野で包括的な連携と協力関係を築き、協働による事業を推進することにより、将来にわたる活力ある地域社会の形成・発展及び市民サービスの向上に寄与する。

4.連携事項

- (1) 健康づくりの推進に関すること。
- (2) 子育て支援の推進に関すること。
- (3) 福祉の推進に関すること。
- (4) 教育の推進に関すること。
- (5) 文化・スポーツの振興に関すること。
- (6) 安全で安心なまちづくりの推進に関すること。
- (7) 災害対策に関すること。
- (8) 環境保全の推進に関すること。
- (9) 地域産業の振興に関すること。
- (10) その他地域の活性化、区民サービスの向上に関すること。

《ご参考》

イトーヨーカドー店舗数：江戸川区内2店舗（アリオ葛西・小岩店）
国内133店舗（2021年2月末現在）

協定締結後、新たに推進していく主な具体的連携事項

◇23 区内で初、移動スーパー「イトーヨーカドーとくし丸」運用開始

移動スーパー「イトーヨーカドーとくし丸」を2021年3月18日（木）より、イトーヨーカドーアリオ葛西店で運用開始いたします。現在、少子高齢化等の進行、小売店舗や様々な拠点数の減少といった社会環境の変化を背景に、日常のお買物において不便を感じる方が増加してきております。こうした日々のお買物ニーズに対応すべく、地域に根差す小売事業者の立場から、お客様の毎日のお買物や、食生活をサポートするために、いわゆる「買い物難民」といわれる方々の買い物支援を行うとともに、地域と連携しながら見守り活動に関する事業を進めてまいります。

今回、イトーヨーカドーアリオ葛西店を拠点に、江戸川区を中心としたエリアを「イトーヨーカドーとくし丸」が移動販売に回ります。

<「イトーヨーカドーとくし丸」 サービス概要>



※イトーヨーカドー花巻店とくし丸

イトーヨーカドーとくし丸
2021年3月18日（木）10時～
イトーヨーカドーアリオ葛西店 （東京都江戸川区東葛西9-3-3）
加工食品、生鮮品、日用品等
約400品目1,200点
江戸川区を中心としたエリア
平日 週5日 10:00～17:00 予定
冷蔵機能を備えた軽車両に積み込んで各エリアを巡回し商品を販売する仕組み。

<ご参考>

◆「とくし丸」とは

移動スーパー事業を展開する株式会社とくし丸は、買い物難民を支援するため2012年に設立され、2016年5月からはオイシックス・ラ・大地の子会社となり、事業を推進しています。

地域のスーパーマーケット（以下 SM）と契約した販売パートナーと呼ばれるオーナー経営者（個人事業主）が地域の提携 SM の商品を選びすぎり、約400品目1,200点の商品を、冷蔵機能を備えた軽車両に積み込んで各エリアを巡回し商品を販売する仕組みです。

また、地域の自治体や警察署と見守り協定を結び、お客様に病気の兆候等があった場合は、福祉事務所や地域包括支援センターに連絡、詐欺事件を防止するなど地域の安全も見守っています。

全国 47 都道府県で 702 台稼働中、143 社の SM と提携しています。(2021 年 2 月末時点)
新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に伴い、人混みや密閉空間を避けてお買い物をしようというお客様の利用も広がっています。イトーヨーカ堂ととくし丸では、感染拡大防止策として、販売員のマスク着用やアルコール消毒液での手指・備品の殺菌、日々の体温測定等を行っています。

◆現在のイトーヨーカドーととくし丸の運用状況 計 27 台 (2021 年 2 月末現在)

◇江戸川区健康増進の取り組み：食品減塩コーナー設置

総務省の 2020 年家計調査によると、二人以上の世帯の外食は対前年比マイナス 26%。食料費全体の支出は概ね横ばいであることから、新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅で食事をとる機会が増えていることを示唆しています。一方で主食・主菜・副菜をそろえるなど正しい食生活を身につけなければ、生活習慣病のリスクが高まっていきます。特に糖尿病は、一般的に感染症が重症化しやすい疾患でもあり、食生活改善を通して予防することが重要です。江戸川



※イトーヨーカドー小岩店減塩コーナー
区では、コロナ禍のこの機会に、区民一人ひとりが気軽にできることから少しずつでも毎日の食生活を見直していけるよう、本プロジェクトを開始しております。

第 1 弾は「うまいぞ！減塩」と題して様々なキャンペーンを展開。江戸川区では、腎臓の働きを示す血液中のクレアチニン値が高い方が全国に比べて多い傾向(※)にあり、糖尿病との合併症も懸念されます。腎臓に負担をかけないためには、まず食事を工夫して食塩の過剰摂取をさけることが必要です。そこで区ホームページにて、汁物の汁の量を減らして具材を増やしたり、調味料を減らしてうま味・香り・酸味・辛味をトッピングしたりするなどのポイントを紹介。毎日の食事の中に取り入れることを呼びかけています。(※) 40 歳から 74 歳の区国民健康保険加入者を対象とした平成 30 年特定検診の有所見者状況より

また、市販されている減塩食品などを取り入れることも有効な手段の一つです。これまで躊躇していた方々が気軽に手に取れるよう、イトーヨーカドー小岩店及びイトーヨーカドーアリオ葛西店では、「うまいぞ、減塩！」という江戸川区が作成したロゴマークを活用して特設コーナーを展開しています。さらに味の素株式会社とハナマルキ株式会社(と共同して減塩みそ汁レシピを開発。通常 1 杯あたり 1.2g ほどの塩分を 1.0g に抑えながら、春野菜と鶏肉を使っておいしく減塩に取り組めるものです。

以上